

試験研究成果普及情報

| | | | |
|--|----------|----|-------|
| 部門 | 資源管理・増養殖 | 対象 | 研究・普及 |
| 課題名：青混ぜノリに使用するキヌイトアオノリの養殖高度化に向けた生態解明 | | | |
| <p>[要約] 青混ぜノリに使用するアオノリは、天然採苗に頼っているため生産が不安定である。そこで、アオノリの人工採苗を行うのに必要な基礎的生態を明らかにし、青混ぜノリに利用するのに適した種を検討した。その結果、香りと旨み分量から、キヌイトアオノリが青混ぜノリの原料に最も適していると考えられた。また、キヌイトアオノリ母藻の保存条件、成熟特性、生長特性を明らかにした。</p> | | | |
| キーワード 青混ぜノリ、キヌイトアオノリ、人工採苗、ノリ養殖 | | | |
| <p>実施機関名 主 査 水産総合研究センター東京湾漁業研究所 協力機関 お茶の水女子大学 実施期間 2014年度～2017年度</p> | | | |

[目的及び背景]

青混ぜノリは、その風味の高さから、黒ノリよりも高い単価で取引され、近年は新聞や機関誌等でも取り上げられることで、地域産品として消費者の関心も高まっている。

このため、ノリ生産者からは青混ぜノリ養殖技術の開発に強い関心が寄せられているが、青混ぜノリの生産はほぼ木更津地区の天然採苗に限定され、当該地区でも年変動が激しく不安定な生産状況が続いており、計画的な人工採苗による安定生産と、漁場展開を行うための実用的な技術開発を行い、生産管理技術を確立することが必要と考えられた。

そこで、青混ぜノリに適したアオノリ種の決定と、養殖に向けた基礎的生態の研究を実施した。

[成果内容]

- 1 天然採苗で付着する種類は、キヌイトアオノリ、 *Ulva californica*、リボンアオサが多く、その中でもキヌイトアオノリが最も多かった。
- 2 官能試験及び成分分析の結果、風味の高さ、旨み成分の含有量等から、青混ぜノリに使用する種としてキヌイトアオノリが適していると考えられた（表1）。
- 3 キヌイトアオノリを母藻とする場合、微弱照明下での冷蔵保存が適しており、4 か月程度の保存が可能であった。
- 4 キヌイトアオノリの成熟に適した水温は25℃前後、塩分は100%海水であり、8時間明期16時間暗期～16時間明期8時間暗期の範囲内では光周期の影響は無いことが明らかとなった。
- 5 キヌイトアオノリの水温別の生長は、5℃以下と35℃以上では枯死または伸張せず、10～30℃では水温が高いほど生長速度が速かった（図1）。
- 6 また、塩分濃度による成長差を比較すると、0～40%海水では枯死または著しい成長不良を示し、60～100%海水では海水濃度が高いほど成長が良好な傾向があった（図2）。

[留意事項]

なし

[普及対象地域]

市川・船橋地区、木更津地区、富津地区

[行政上の措置]

なし

[普及状況]

なし

[成果の概要]

表1 アオノリの旨み成分量 (mg/100g 乾物)

| 旨み成分 | キヌイトアオノリ | <i>Ulva linza</i> 近縁種 |
|--------|----------|-----------------------|
| イノシン酸 | - | - |
| グルタミン酸 | 896 | 321 |
| グリシン | 37 | 49 |
| アラニン | 311 | 49 |
| アルギニン | 44 | 25 |

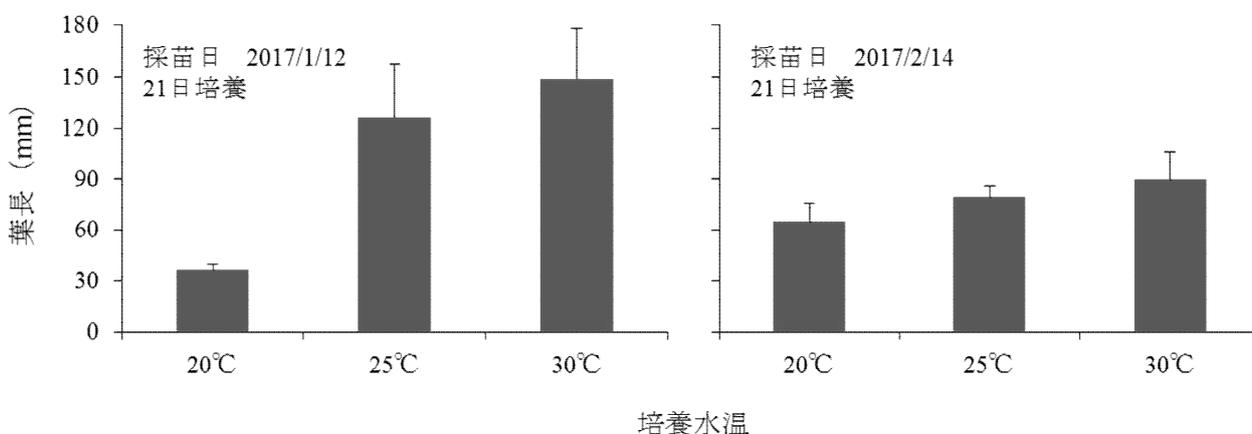


図1 水温による生長差

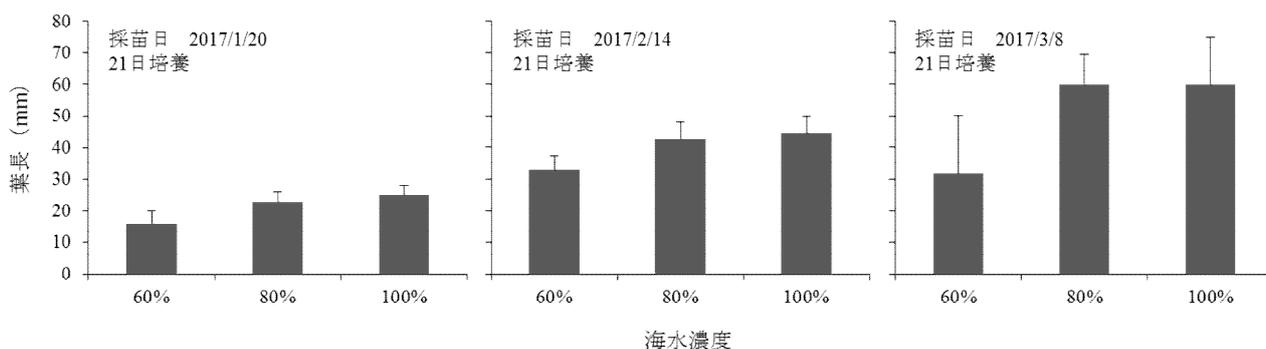


図2 海水濃度による生長差

[発表及び関連文献]

キヌイトアオノリの成熟と光周期との関係および光照射による遊走子放出の誘導, 千葉県水産総合研究センター研究報告, 第12巻, 2018年

キヌイトアオノリの成熟誘導に及ぼす藻体の断片化および培養温度と塩分条件, 水産増殖, 第66巻第2号, 2018年

[その他]